

社会福祉法人 真光会 各保育園の昨年度自己評価、およびそれにもなう今年度の園目標

園評価の方法について

各園、平成29年度の各園の目標設定のために、①子どもの発達援助5項目、②健康管理食事6項目、③保育環境2項目、④保育内容11項目、⑤子育て支援5項目、⑥多様な子育てニーズ対応1項目、⑦地域の子育て支援2項目、⑧地域の住民や関係機関等の連携7項目、⑨実習・ボランティア2項目、⑩運営方針5項目について、全職員で3段階評価を実施。

そこで、下記のように、(1)平成28年度 当園の問題となった項目、(2)平成29年度/(3)平成30年度 当園としての努力してきたい項目を抽出して、各園の職員室に個人目標とともに掲示し、目標達成率向上に向けての行動基準を作成した。

平成30年度は保育計画の見直しを実施。

	高木保育園	今町保育園	天竜保育園	梅北保育園
平成28年度 当園の問題となった項目	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価のみで終わっていないか、個々の実践の歩みに結果として表れているか? 子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。 話を聞く態度をより改善していく必要があるのではないかと。 子育て支援のあり方 	<p>1)園児の主体性を考えた環境づくりや保育内容をそれぞれのクラスや全体で工夫してきたが、発達の連続性、保育の連続性について考えた時、経験や学びに見直しの必要性を感じた(保育教諭等の経験の差、1～2年目の育成にもつながる)</p> <p>2)開かれた園づくりをめざしているが、もっと積極的に取り組み、地域での子育て支援としての役割り、地域福祉について視野を広げて実践に移していきたい</p>	<ul style="list-style-type: none"> 素材や用具など園児が自由に取り出して遊べる工夫が不足している。 園外活動は、しているものの戸外で食べる(弁当)機会が少ない。 SI理論の実践を心掛けているが、職員によっては偏りがある。(肯定的・容認的な言葉掛け) 気がかりな保護者、園児が増えてきており、園が対応しても保護者の理解を得ることが困難だったが、徐々に理解して下さるようになり専門機関との連携が深まりつつある。 園近隣より園利用者のマナーについて指摘を受けることがある。 	<p>①園児が自由に素材や用具などを取り出し、自発的に活動できる環境づくりが難しかった。</p> <p>②園児が自由に歌ったり踊ったりするリトミックや身体を使った表現遊びを十分に行うことができなかった。</p> <p>③子育て相談、園開放など地域の子育て支援のための取り組みについて、発信の仕方・支援の方法など今後の課題となった。</p> <p>④園児の様子や園の取り組みを視覚掲示していくが、保護者からの反応があまり聞こえなかったため、今後どのような工夫をしていくか考えていく。</p> <p>⑤認定こども園に向けて、保育要領解説の読み合わせを行っていたが、行事等の関係で思うように進まなかった。</p>
平成29年度 当園として努力してきたい項目	<p>地域に開かれた保育園作り～園児一人一人が輝きながら、こころも体もたくましく育つ～</p> <ul style="list-style-type: none"> 園児の気持ちをくみ取り、ぬくもり、やすらぎ、やさしさの態度で応答性のあるクラス運営に努力する 年齢に応じ、話を聞く・話す態度が身に付き、相手を思うところを育む 地域の子育て支援のあり方を考える 	<p><u>1)園児の発達に即した連続性のある保育の在り方を研究する</u></p> <p>①真光会指導計画に基づいた今町保育園独自の領域別指導内容の作成(0～5歳児)</p> <p>②全職員の共通理解による実践と反省(次年度へつなげる)</p> <p><u>2)開かれた園づくりをめざす</u></p> <p>○地域交流、小学校との連携を深める</p> <p>○園開放の充実 ～ 第2水曜日(おひさまクラブ)</p> <p>○保護者との連携を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人面談 育児相談 育児講座(講演会) 子育て座談会 食育講座 保健講座 	<ul style="list-style-type: none"> 特に以上児クラスで種類別に廃品等を分け、自由に遊べるように環境を整えたい。(更生活用) 弁当の日を十分活用し、天候等を考慮の上、戸外で食べる機会を作る。 「自分が言われたら、どんな気持ちになるか?」を考えながら園児への言葉掛けに気を付ける。※SI理論を保育の実践目標とし、命令語、威圧的態度は慎む。 気がかりな園児等に対しては、園内研修の場を通して共通理解し、今以上に対応の仕方を統一する。専門機関との連携を取り合い深めていきたい。 29年度より導入する外部講師による体育遊び(月1回、以上児)を通して、保育教諭等も学び運動遊びの向上に努める。 <p>◎認定こども園として教育及び保育の概要をしっかりと学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子育て支援事業への努力をする(育児相談・園開放・食育講座・保健講座・育児講座・一時預かり保育・休日保育等) ◎地域との交流の継続(早給高齢者クラブ・更生保護女性会等、貢献活動への参加) ◎平成30年度からの保育所保育指針改定へ向け、目を通す努力をする。 	<p>①保育目標にある幼児像を大切に保育を行う中で、園児一人一人が自発的に活動できる環境づくりを実践していきたい。</p> <p>②子育て支援、園開放の充実を図っていきたい。</p> <p>③保護者への情報発信方法を工夫し、より園での様子が伝わるよう取り組んでいきたい。</p> <p>④認定こども園化に合わせ、保育要領解説の読み合わせを継続し、職員一人一人の保育教諭等としての意識を高められるよう努力していきたい。</p>
平成30年度 当園として努力してきたい項目	<p>『地域に開かれた保育園を目指して』～遊びの内容を充実し、遊びを通して園児一人一人が育って欲しい10の姿を育む～</p> <ul style="list-style-type: none"> えがおの日、園開放(異年齢の園児交流) [わらべうたあそび、運動遊び、季節を感じとる遊び] 自発的に体験や活動ができる環境構成 地域子育て支援のあり方を考える(来園者への遊びや絵本等の情報を提供) 	<p><u>1. 園児の主体性、保育の連続性について研究を深める。</u></p> <p>①真光会指導計画に基づいた領域別指導内容の見直しと実践。</p> <p>②園児自ら遊びを見つけたり、遊び込んだりできる環境づくり。主体性を育む保育の工夫。</p> <p><u>2. 開かれた園づくりを実践する。</u></p> <p>①地域社会との連携(公民館、小学校、施設、高齢者、消防団など)</p> <p>②園開放 一時保育 保育自由参観(誕生会、体育あそび、英語であそぼう)</p> <p>③保護者への働きかけ [親子生活カードの取り組み、個人面談、保育の見える化(写真の掲示)、園だより、クラス便り、すくすく便り、ぶらんこ通信、講座(育児講座、保健講座、食育講座、親子クッキング)]</p>	<p>30年度 天竜保育園 園目標 「よき保育者となるために」を実践しよう～やさしい表情 やさしい言葉 やさしい気持ちで～</p> <p>◎スローガン 「親鸞聖人の生き方に学び まことの保育を広める」 『何事もさして頂く心もて いよいよ励まん おのがつとめを』</p> <p>[具体的内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○育児支援等計画(6事業)を実践する。 ○保育目標 “慈心不殺”を常に保育教諭等に置き換えて意識する。 ○保育教諭等としての基本姿勢(傾聴・共感・受容・奨励)を心掛ける。 ○SI理論を積極的学び、保育や日常生活に生かす。 ○生活、遊び共に連続性のある内容とし、領域別指導計画の継続を心掛ける。 ○「園外保育」(園バス)の利用を通して体験による学びを生かす。(自然体験、社会性など) 	<p>「いろいろな体験や人との触れ合いの中で、いのちを大切にすることを育んでいける保育をめざして」</p> <p>①合同仏参や園児向け法話などを通して、仏様を身近に感じ、真光会の保育理念である「いのち」「こころ」「生きる力」の基礎を育めるよう努力する。</p> <p>②保育教諭等の資質向上、お互いの共通理解(ほう・れん・そう・かく・しん)を深められるような物的、人的環境構成に努める。</p> <p>③異年齢の園児との交流を通して、カメさんタイム、ウィズデー、挨拶運動を継続し、コミュニケーション力を高める。</p>